

今春、故里近江八幡に戻り、暮らすようになって初めて財団研修の旅に参加した。良い旅であった。そして、幸運な旅であった。天気予報では2日間とも荒れ模様だったのに、着く先々で雨は止んでいた。お陰で雨上がりの濡れた美しい街の佇まいを見ることが出来た。

バスガイドさんの説明には感激した。臨機応変に、詩歌・俳諧、小説・随筆、唱歌・歌謡曲など多彩なジャンルから資料を引用し、自ら考えを重ねて語ってくださった。久しぶりに出会った教養豊かな女性であった。聞けば、信州大好き、乗客の反応に力を得て、その魅力を是非伝えたいと熱くなられた由。エージェントもハートランド財団主催の水準を慮って、選任をされたのであろうか。参加された皆さんは例外なく熱心で、強行日程にもめげず、見て、聞いて、食して、飲んで、更には買って、と貪欲であった。

馬籠・妻籠・奈良井・海野・美濃、今回の研修先は、いずれも往時の建物と街並みを残す美しい街ばかりである。その家々は、木と土を主役にして共通する自然素材を使い、高さや階数、屋根の葺き方を揃え、それでいながら一軒ずつ造りが違っている。街毎に、出桁・下屋庇・卯達・格子などの造りに固有の講法がある。街並みの美しさは、この統一感と個性によって醸し出されているのだ。



<石畳の坂道沿い、水と緑が豊かな馬籠の街並み>



<旅籠が連なる閑静な  
大妻籠の街並み>

初日の昼食後に数人で歩いた大妻籠の旅籠の街道筋、観光コースから外れた鄙びた佇まいがとりわけ心に残った。まちづくり協定など有りもしなかった時代に、これほど見事な景観を各地に創出してきた先人の協調性と美意識に驚く。これからのまちづくりに受け継いでいかなばならない文化創成の基本精神であろう。

希望を述べさせてもらえば、街並みを「見る」旅から「観る」旅へ工夫がほしい。要所を押さえた資料の準備、事前の勉強会開催、現地説明者の選択など工夫の余地はあろう。

加えて財団の目的に照らせば、「街並みを見る旅」から「まちづくりを学ぶ旅」へのステップアップを期待したい。研修先のまちづくりに関わっている人たちに経緯やノウハウを学び、近江八幡での経験も踏まえて交流する機会を設けられないであろうか。

今回は観光ボランティアの方がかなり参加しておられた。隅々その人たちと話が弾んで、八幡公民館建設の記録『みんなで創った公民館』（教育委員会刊）が話題になった。

設計段階から建設の一部過程にまで、地元の皆さんが関わって出来上がった木造の素敵な建物である。最近のまちづくりの一成果と言えるかもしれない。観光客の皆さんにも案内して是非見てもらおう、ということになった。いずれ研修会が開かれる予定で、建設の助言者を務めた私にもガイドさんのガイド役をする役割が回ってきた。

旅には出会いがある。出会いはまた新たな展開と絆を生み出してくれる。